
BREAK OUT

櫻庭 稜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

BREAK OUT

【Nコード】

N9640X

【作者名】

櫻庭 稜

【あらすじ】

『ばいばい』

『助けて』

彼女の言葉。

それは、彼女の終りを現す、最後の言葉だった。

変才王道馬鹿の贈る、悲しく儂くとも、美しい現代アクションストーリー

(残酷な描写、表現、卑猥な表現、描写がありますので、苦手な方は今直ぐバックブラウザ)

(何故だか組み込まれたB.L要素、これはまあ、苦手な方はバツ
クブラウザで宜しくお願い致します)

用語紹介

プリエリテイ
歌姫

その世界で貧困差別や、自然災害、紛争等で生きる気力を失った人々に希望を送り届ける役目を果たす『歌の姫君』。思考と言う思考は歌を歌っている途中は遮断され、操り人形とされるが、プリエリテイ・ノイズ欠陥姫は廃棄処分とされる。アンドロイドの為に、幾多でも製造は出来るが、その際に感情が産まれる場合が存在し、その場合は即座に欠陥姫として出されるらしい。製造している場所は『関東支部』。

ディフェリテイ・ノイズ
欠陥姫

欠陥品の姫君と称される、感情を持った姫、或いは歌う事の出来なくなつた姫、または命令の通じない姫君を指す言葉でもある。適性検査を通る際にこれは全て解るようになっており、危険信号として彼女達には自爆機能も付いている。

シンサイズ・フィールド
歌捧領域

歌姫の広げる空間であり、この空間は人々の心を高揚感に満たす効果を持つが、解けた際に希望に満ち溢れなかつたものは完全に駄目らしい。

関東支部

東京、神奈川、埼玉が主力の支部。

『歌姫計画』と称し、全世界に希望を振り撒く計画とされているが裏で行われている事が解らない現在では、良い事をしていると言う事以外ツツコミ所がないらしい。

頭は東京本部の『津田骸』と呼ばれる津田財閥の人間。相当な権力と、政治力、資金を持ち、日本だけでなく、世界にも貢献する人間だが、完全にはどうなのかは知られていない。

ダストボックス
廃棄場

欠陥姫を廃棄する場所であり、廃棄された姫は原点の部品に戻る事となる。

年に数百単位で廃棄されているらしく、環境汚染問題が無い為、周囲の人間も特に興味を示さない。

黒鷲

通称『ブレイクアウト』と呼ばれる組織であり、関東支部による圧力から逃れる為に設立された物。関東支部は、歌姫や、人々の希望を奪う者、悪影響を及ぼす者を排除するらしく、排除方法は警察関係による鎮圧。それから逃れたのがこの団体であり、皆無法者。目的は『関東支部の陰謀を知る事』であるが、『歌姫の救出』でもあるらしい。関東だけで小規模だが、6つ存在し、その中でも埼玉県の物が一番大きく、人数では学校の教室一クラス程度の人数が居ると言う。

墜鳥

黒鷲を落とす為に設立された武装勢力。通称『アンチアウト』と呼ばれる組織であり、皆が電磁警棒や、拳銃を所持している。警察官、機動隊の中でも選りすぐりの人間から選ばれた存在らしく、その人数は相当の物。

第一章主要登場人物（前書き）

案外多いですね、合計4人。

実際第一章早く終わります。

なぜか、と。

第二章から始動なんですよね、深い深い方面では、
と、言う事でどうぞ！

第一章主要登場人物

名前：難波 湊

年齢：17歳

職業：高校生

部活：陸上部

容姿：黒髪黒眼

好物：甘味

本作品の主人公であり、語り部。

現役中距離有望選手であり、成績も並々。

ルックスも中の上の為、案外モテる。ツッコミ役として稼働する。

華奢で女の様な体系の為、コンプレックスが『女の様な体系』。

一部の女子の間では人気者で、密かなファンクラブがある程。

両親が幼い頃に他界し、現在精神不安定状態の幼馴染と同居状態。

自称『バイ』らしく、一流フラグビルダー。

名前：白崎 悠

年齢：16歳

職業：無職

部活：無し

容姿：白髪灰目

好物：湊の作る物

湊の幼馴染で、両親の過度の虐待と、突如の両親の自殺により精神不安定状態。

髪も脱色し、瞳も脱色しており、未だに傷跡が体に残っている状態。身長は湊より数十センチ低く、子供のように言われており、湊と並ぶと弟扱いされる。

実の兄の様に湊を慕い、甘えるが故に、湊は既に慣れ切っている状態とも言える。

高校には行けない状況だが、家にて湊が勉強を教えている模様。周囲もそれを知っている為に、余り追求はしない様子。

名前：辻井 深雪

年齢：17歳

職業：高校生

部活：陸上部

容姿：亜麻色のポニテに茶色の瞳

好物：辛味

湊のクラスメイトであり、ムードメイカー。

実にテンションの高いボーイッシュな高校生で、落ち込むと言う様子を余り見せない。

湊と悠の事は既に知っており、時折湊の家に行き、料理を持って成す。

お菓子作りに置いてはプロ級だが、料理では湊に劣る。

頭は馬鹿だが、運動神経に置いては相当な物でもあり、他校からスカウトさえ掛かる。

強がり克、男口調ボーイッシュなのが特徴的だろう。

名前：雨宮 啓一

年齢：17歳

職業：高校生

部活：剣道部

容姿：黒髪黒目黒縁眼鏡

好物：日本茶

『雨宮漣紀流』と呼ばれる剣術の一家の跡取り息子。

湊達とは仲が良く、冷静沈着ながら、ツッコミ役。

悠の事は既に知っている為、こちらもまた追求はしない。

頭も運動神経も抜群で、女子の人気は相当な物。

剣道部主将を務め、湊の主将同士の愚痴り合いは見物でもある。

案外甘党なのと、機械音痴なのが特徴的

第一章主要登場人物（後書き）

因みに悠はハルカと詠みます。

え、BL？いえいえ、普通のノーマルです。

ではでは

『助けて』（前書き）

ハイ、どうも。

第一話、ですね。

序章ですが、序章が長くなる恐れがあります。

それと、近頃肉体の調子が悪くニコ生が出来ないと言つ悲劇に……
では、どうぞ

『助けて』

……。

これが夢だと言っ事は解ってる。

夢は嫌いだ。

覚めてしまっから。

夢は好きだ。

仮想の中に居られるから。

夢は　。

其処で脳内に雑音ノイズが入る。

キャッチ？

夢に？

強くなる雑音は、脳内に直接響き続け、耳鳴りまで引き起こす。

漆黒の闇に叩き落される。

此処は、何処だ？

夢の中、なのか？

夢の中で、良いんだよな？

雑音は次第に鮮明に、何かを訴えるようにして、俺の脳内に強く、強く響き続ける。

まだ雑音が強く、上手く聞き取れない。

雑音が一瞬だけ消え、そして。

『助けて……』

其処で目が覚めた。

息が荒い。

鼓動が早い。

「……、夢、だったの、か？」

俺は額に手を当てて、壁に掛けてある時計に目を遣った。

「五時……、まだ後二時間は眠れるぞ」

溜め息を吐いて、不意に時計から隣に視線を移せば、其処にはいつも通り、俺の手を握り静かに、まるで人形の如く眠り続ける幼馴染の姿がある。

「……、助けて、か」

そっと、幼馴染のその脱色した銀色の近い白い髪を梳く様に撫でてから、言葉を漏らす。

「……、いや、今は寝よう」

髪から手を滑らせ、布団の中に納めてから、握られている手を強く握り返せば、瞳を閉じる。

再び広がる漆黒の間。

嗚呼、嗚呼。

やっぱり『夢』は大嫌いだ。

『助けて』（後書き）

どうでしたでしょうか？

いえいえ、BLじゃありません、ノーマルです。
さて、と。

妙な夢ですよね、助けて一言。

どう思いますか？

では、次回会いましょうー^・・ノ

夢の続き(前書き)

さてさて、連続投稿。

どんな夢なのでしょう？

気になりますよね、夢って。

では、どうぞ！

夢の続き

十月二十八日、七時半。

鳴り響くアラームの音に目を覚ました俺は、上半身を起こし、瞳を擦った。

(二度寝からの起床は辛い……)

俺は握られている手をそっと離し、布団から出ればカーテンを開ける。

「今日も快晴」

笑みを零して、俺は思い切り体を伸ばす。

背骨が伸びていく感覚が、手に取るように解った。

「さて、と……、取り敢えず朝食だ、朝食」

一頻りひんり体を伸ばせば、良しと頷いて、俺は扉を開けた。冷たい、秋の冷気が足元を擦り抜けた。

「寒……」

俺の中の天気予報が正しければ快晴だが、温度は低い。

秋だから、と言う事もあれば、そろそろ冬だから、と言う事も理由に入る。

いずれにせよ、寒いのは嫌いだ。

リビングの扉を開け、ファンヒーターにスイッチを入れてから、俺はまず洗面所へと向かう。

「寒いのは嫌だね、ホントに」

はあ、と溜め息を吐くと、家内だと言うのに白い息となる。外が相当寒いと言う証拠だろう。

顔を洗い、歯を磨き、シャツと学校の黒いスラックスに着替えればキツチンへと向かった。

「何が有ったかな……」

中を漁りながら呟く。我ながらこれはまるで泥棒だ。

「まあ、適当に済ませますか」

フライパンを取り出し、クッキングヒーターに乗せてから材料を選び抜く。

これが俺

難波湊なんはみなとの一日の始まりである。

「我ながら完璧」

朝食準備を終えた俺は、フライパンや小枝箸、鍋等を洗い、片付ける。

「さて、後はあの寝呆介だけだな」

本日二度目の溜め息を吐いてから俺は扉を開け、再び寒い廊下へと出る。

素足で冷たい床を踏み締めながら階段を上り、未だに眠り続ける幼馴染に目を遣る。

「こうして見ると、女みたいだよ……。ホントに」

苦笑を零し、いつか女装させてみるか、と呟いた後で眠り扱こける幼馴染の肩を二度叩く。

「朝だぞ、そろそろ起きろ」

数秒の間。

返答無し。

「全く……、ほら、朝だ。起きろ起きろ」

再び肩を二度叩く。

と、毛布と布団が盛り上がり、中からその綺麗な白い髪が姿を現す。

「にゅ……、朝あ？」

枕に顔を埋めたまま尋ねられる。

「嗚呼、朝だ。朝食の準備は出来てるから、さっさと下りて来いよな」

「んー……」

よし、と頷いて俺は下へと下りる。

下りながら、そう言えば朝刊取って来てないな、と思い、玄関へと向かった。

「うお……、寒い」

一瞬身を震わせてから、落ちている朝刊を手を取った。玄関の新聞を入れる隙間から冷たい風が入り込んで来ているのがこの寒さの原因だろう。

朝刊を持ったままリビングに入れば、ソファーに腰掛ける。

「本日の一面は、と……」

サイバーテロやら、殺人事件。色々な記事が載せられているが、一番俺の見たかった物はどれでもない。

「これでもないし、これでもない……、あ、有った有った」

『関東支部、ついに歌姫フリエリテイ三百体の生産に成功』

「三百……、全部同じ奴だったら滅茶苦茶怖いな……」

想像して震えてから、皮肉混じりの笑みを浮かべて続けた。

「三百って事は、相当な金掛けたって事だよ……。一体何処からその金が出るのやら」

新聞を閉じ、置いてから天井を仰ぎ見た。

フリエリテイ
『歌姫』

「歌姫、か……」

歌姫、とは被災地や、貧困差別、未だに存在する奴隷制度や、紛

争を納める為に作られた、『人々に希望を与えるアンドロイド』らしいのだが、アンドロイドの癖して感情が存在するらしい。

そう考えると、感情を持たなかった、いや、持つ事の出来なかった過去のロボット達が可哀想に見えて成らない気がした。

と、リビングの扉が開けられ、冷たい冷氣と共に彼が入って来る。

「お早う、悠^{ゆう}」

随分と気持ち良さそうな顔をしていたが、どんな夢を見てたんだ？ と尋ねると、悠はその灰色の瞳を擦りながら此方に歩み寄り、俺に抱き着いてから、湊の夢、と柔らかな笑みを浮かべて告げて来る。

「俺の？」

「ん……、そだよ」

「俺の夢ってどんな夢？」

「秘密」

「教えてくれたって良いだろうに……、ま、良いや、取り敢えず飯だ。飯。学校に遅れるからな」

「んー、はい……」

これが日常。

あの日、俺達の日常は日常とは呼べなかった。

悠が来たのも、三年前の、今日だった。

夢の続き(後書き)

どうでしたでしょうか？

え？ BL？

違う違う、ノーマル。

これがBLなら、腐女子御用達の池袋本店でも行ってこいやあっと言ったが、前女子友人達に連れられて行ってしまった俺も居ます。

はい、スイマセン。

では、次回！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9640x/>

BREAK OUT

2011年10月28日03時16分発行